

## 6. 職業奉仕

### 6.1 職業奉仕を考える

ロータリーの目的は、前にも述べたように、日々の仕事を通して世の中に貢献するために、奉仕の心を育て向上させることです。奉仕とは他人のために何かをすること、他人のニーズを充たすことを自己の使命と考えて行なうことです。ロータリーの目的は、職業を通して社会のいろいろなニーズを満たすこと、とも言えます。職業奉仕とは、職業を通して社会のニーズをほぼ完全な形で満たせるよう努力を重ねるということです。それによって、自己の職業の品位と道德水準を高め、社会から尊重される存在にすることが出来るのです。また、それによって日々の奉仕活動が行いやすくなり、効果も向上する筈です。

ここで大事なことは、ロータリアンは日々の仕事を通して生きる力の根本である自らの道德的能力を高め、それを社会に反映させることを使命と考えて努力しているということです。すなわち、ロータリアンは日常の職業活動を通して、自分の職場の従業員、取引先の人達やその関係者、ひいては地域社会の人達の模範となり、生きる力の根源である道德的能力を向上させることに努めているのです。このような仕事の仕方をロータリーでは、職業奉仕と呼んでいます。皆さんが真のロータリアンであるか否かは、皆さん自身とその職場が社会の模範となるように努力することを自己の使命と考えているか否かにかかっているのです。

何時の時代でも、社会の人々の道德的能力の向上が叫ばれます。道德的能力の基本は、人間が他の人々や動植物を含む自然環境に対して、どのような態度を取るべきかを適切に判断する能力であると考えられます。そのような判断を下すには、人だけでなく、人以外の動植物やものともコミュニケーションが出来なければなりません。人以外の動植物やものは人間の言葉をしゃべらないので、それらとのコミュニケーションは想像力に頼るしかありません。また、社会人として真っ当に生きていくためには、過去に学び、未来を予測することが必要です。そのためには、既に亡くなった人

やこれから生まれてくる人との想像力を駆使したコミュニケーションも要求されます。したがって、道徳的能力の根源は想像力にあります。道徳的能力の向上には、自己の知識と経験を生かして想像力を養成し高めることが必要です。そのために、ロータリーの素晴らしい仲間同士での親睦が役立つことは間違いありません。親睦を通しての道徳的能力の向上とも言えます。ロータリーの親睦の意義はこの点にあることを忘れないで欲しいと思います。

想像力は人文、社会、自然科学を推進する原動力でもあります。想像力を駆使して試行錯誤を繰り返すことで、科学は、そして社会は進歩していくのです。想像力の成果の集積は新しいものや概念や職業の創造に繋ぐことができます。創造力は想像力の集積の結果として生まれてくるものです。ロータリアンは日々の職業奉仕を通して、自身の、また、職場や地域社会の人達の生きるための根源の力である想像力を高め、社会の進歩と平和に貢献しているのです。ここでもう一つ述べておきたいことがあります。それは、自分が他に対してとるべきと考える態度が適切か否かを判断する際に、想像力とともに、その適切性を判断する規準が必要であるということです。この規準はあくまでも個人的なもので、人により異なるものですが、ある程度の一般性を持つべきものでもあります。その例として、ロータリーの四つのテスト（6.2小節および11節参照）は非常に良くできた規準の一つと考えられます。

ロータリアンは職場の外でも社会のニーズを充たすために、いろいろな活動をしています。これは社会奉仕であり、活動の場が国際的であれば国際奉仕ではありますが、それが自分の職業の専門性を活かした奉仕であれば同時に職業奉仕の性格も備えていることになります。職場の外での奉仕には、お金や物や労力を提供する奉仕、職場で培った知識・技術を提供する知的奉仕などいろいろな奉仕があります。これらのうち知的奉仕は、それぞれの分野で最高の知識、技術を備えたロータリアンにとっては、最適の奉仕の一つです。私共の2660地区のクラブが何年にも亘って行なってきた小学校、中学校への出前授業や職場体験学習はその一例です。中学校で道徳の授業をしたとき、話を聴いてくれた生徒の一人が「最初は聞くだけで頭がこんがらがらるような難しい話かと思っていたが、聴いているうちに、いろいろな科目や物事でも道徳で繋がっているのだという新しい見方ができるようになった」と言ってくれました。本当に嬉しい子供の一言でした。

ここまで述べてきたことを頭に入れて、以下の職業奉仕に関するロータリーの公式文書をお読みいただくと、「よく分らない職業奉仕」というような考えは消滅するのではないかと思います。

## 6.2 職業奉仕の理念とロータリアンの職業宣言

ロータリーのクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の考え方は、1927年ベルギーのオステンドで開かれた国際大会で決められたものです。このときに、当初、ロータリーの基本理念として一般奉仕概念と呼ばれていたものに**職業奉仕**（**Vocational Service encourages Rotarians to serve others through their professions and to practice high ethical standards:** 職業奉仕は、ロータリアンがそれぞれの職業を通じて他の人々に奉仕し、高い道徳的水準を保つことを奨励します）という呼び名が正式に与えられたのです。

この vocation という語は business、job、occupation や profession という語に比べて、神から授けられた仕事（天職）、社会生活における分業の担い手、職分、人に必要とされる職業というようなニュアンスが強い言葉です。このことを考え合わせていただければ、職業奉仕の理念がよりよく理解できると思います。

職業奉仕の基本理念は 1915 年のサンフランシスコ大会でロータリー倫理訓（道徳律、<http://sites.google.com/site/rotary100jiten/yougo-shuu/sa-kudari-1/to/doutoku-ritsu>）というかた

ちで表現されることとなりましたが、残念なことに、条文の中にマタイ伝から引用された文章があり、宗教色が強いという点が問題となって、政治と宗教は取り込まないとするロータリーの原則に反するだけではなく、逆にロータリー運動が宗教活動と混同され、無用の誤解を招く恐れがあるという批判が続出し、国際ロータリーにおける慎重な検討の結果、1951年にロータリーのあらゆる文書から姿を消すことになりました。宗教的問題だけでなく、その内容の厳しさも批判の対象となりました。特に、その第6条「事業を営む場合には、同業者と同等又はそれに優る完全なサービスを提供しよう。若しそれに自信が持てなければ、採算上厳しい限度を越えても、それを上回るサービスを心掛けよう」の内容を厳密に解釈すれば、販売した商品については、永久にアフターサービスの責任を取らねばならず、現実の問題として実行不可能であるという批判が多くなされたのです。ただ、宗教的な問題を除けば、この倫理訓がロータリーの高い理想を表現していることは間違いなく、「最近、問題となっている製造物責任法（PL法）は、この考え方に基づいた法律であり、これを1915年に発案したロータリーの職業奉仕理念の素晴らしさを改めて賞賛すると共に、この道德律が、現在にも通用する優れた倫理基準であることを再確認すべきではないでしょうか」という田中毅氏の意見は重要な指摘であると思われます。

このようにして、ロータリー倫理訓（道德律）は姿を消すことになったのですが、その内容は職業奉仕の根本原理を表すものとしてその復活を望む声も多く、1989年、RJ理事会はロータリー倫理訓に代わるものであるとして、職業宣言を採択しました。その内容は、ロータリー倫理訓（道德律）から、宗教的色彩とアフターサービスの記載を消去し、青少年や地域社会に対する技術提供と誇大広告の禁止を謳うことによって時代のニーズに適応したものです。その全文を以下に示します。

#### ロータリアンの職業宣言（Declaration for Rotarians in Businesses and Professions）

1989年規定審議会は次の職業宣言を採択した。

事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私には以下のごとく行動することが求められている。

- 1) 職業は奉仕の一つの機会であると考えること。
- 2) 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道德基準に対し、名実ともに忠実であること。
- 3) 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理基準を推進するために全力を尽くすこと。
- 4) 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し、公正であること。
- 5) 社会に役立つすべての仕事に対し、それに伴う名誉を認め、敬意を表すること。
- 6) 自己の職業上の才能を捧げて、青少年に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めること。
- 7) 広告に際して、また自己の事業または専門職務について人々に伝える際には、正直を貫くこと。
- 8) 事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めたり、与えたりしないこと（89-148、ロータリー章典 8.030.2.）。（2010年手続要覧、109頁）

昨今の企業の不祥事はロータリーの直接の責任ではありませんが、このような事態を解消する責務がロータリーにあることは否定できません。ロータリーの基本理念を常に念頭に置き、日常の職業活動や生活の中で、時にはその理念を思い起こして自己の行動に反映させ、真実のともし火となるのが真のロータリアンということになりましょう。このような事情を踏まえて、2004年規定審議会

は、下記のような決議案（決議 04-290）を採択しました。（国際ロータリー2004年規定審議会決議報告、[http://www.rotary-aomori.org/2005/word\\_pdf/col04\\_report\\_action\\_ja.pdf](http://www.rotary-aomori.org/2005/word_pdf/col04_report_action_ja.pdf)）これは、職業奉仕に関する声明をすべてのロータリアンがより良く理解し、事業および専門職務上の倫理に対するロータリーの決意を実証するような生き方を目指して引き続き実践し、また、ロータリークラブが、21世紀を迎え、奉仕活動の第二世紀に移行するにあたって、ロータリーの高度な道徳的水準を実証する個人を惹きつけ、これまでの顕著な実績を継続して積み重ねていくことを支援するために行われたものであります。

#### 決議 04-290—職業の倫理的規範に対するロータリーの決意を実証する事業生活の充実、育成を強調し、これらの道徳基準を実践する会員を探し出す件

国際ロータリー創立の原理原則の一つは、事業および専門職務における倫理に対する関心であり、その推進であった。この倫理に対する関心は、ロータリアンの主要目的が有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成することを明記している「ロータリーの綱領」の次の各項を、特に、鼓吹し、育成することにある：事業および専門職務の道徳水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること。

1910年の早い頃から、事業および専門職務の倫理を高める会員を育成しようとする国際ロータリーの熱意は、商取引の方法のための委員会の設置により実証された。そうした委員会の責任は、進歩的かつ尊敬に値する商取引の方法を推進する方法および手段を考慮することであった。事業および専門職務における倫理に対するロータリーの決意は、引き続きロータリアンがおよそ半世紀にわたり信奉してきた「四つのテスト」に明らかである。四つのテストは、次の通りである：

- 1) 真実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

言行はこれに照らしてから行うべし。

このテストの作成者、RI 元会長ハーバート・テイラー氏は、これを自社のための指針として創案した当時、「私たちは、第一に、従業員の雇用にあたって十分な注意を払い、第二に、彼らが自分の会社で順調に働いてゆくに従い、より優れた人間となるよう援助することを決めた」と語っている。テイラー元会長は、ロータリアンは、倫理観をもって思いやりの心で他の人々に奉仕するよう尽力することを強調したのである。

国際ロータリーの決議により、すべてのロータリアンは、事業および専門職務における倫理に対するロータリーの決意を実証する生活を掘り起こすために引き続き献身することとする。さらに、国際ロータリーの決議により、21世紀を迎え、奉仕活動の第二の世紀に入るにあたり、ロータリークラブは、ロータリーの高い道徳的水準を実証する個人を探し出し、また関心を引き付けるよう顕著な記録を継続して構築することとする。

その後2011年9月のRI理事会は、地域のリーダー、定年退職者、一時的に事業又は専門職から退いている方々がクラブに所属していることを考慮してロータリアンの職業宣言を「ロータリーの行動規範」に変更しました（手続要覧 63 頁）。

## ロータリーの行動規範 (Rotary Code of Conduct)

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) すべての行動と活動において、高潔性という中核的価値観の模範を示すこと。
- 2) 職業の経験と才能をロータリーでの奉仕に生かすこと。
- 3) 高い倫理基準を奨励し、助長しながら、個人的活動および事業と専門職における活動のすべてを倫理的に行うこと。
- 4) 他者との取引のすべてにおいて公正に努め、同じ人間としての尊重の念をもって接すること。
- 5) 社会に役立つすべての仕事に対する認識と敬意の念を推進すること。
- 6) 若い人々に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めるために、自らの職業的才能を捧げること。
- 7) ロータリーおよびロータリアンから託される信頼を大切にし、ロータリーやロータリアンの評判を落としたり、不利になるようなことはしないこと。
- 8) 事業または専門職上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同輩ロータリアンに求めないこと。

この行動規範は 2014 年 1 月の理事会において、さらに次のように改定されました。

### ロータリーの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5. 事業や職業における特典を、ほかのロータリアンに求めない。

理事会は、クラブが新会員のためのオリエンテーションでこの「ロータリーの行動規範」を紹介することを呼びかけています。

### 6.3 職業奉仕の現場では

奉仕の理想については 2 節および 6.1 小節で述べましたが、実際の奉仕の現場では、その解釈はロータリアン各自、あるいは、ロータリアンのグループに任されているともいえます。奉仕の現場の状況、問題、可能性は非常に多様で、奉仕はそれに対応して実行されなければならないので、ロータリアン個人が、自分自身に対して「自分の職業活動を奉仕の理想・理念に基づいて実行するには、具体的に何をすればよいのか」を問いかけ、それに対して自ら答えることによって、効果的な職業奉仕を実行することが出来るのです。

ここで一つ問題になるのは、2 節でも述べたことですが、日本の一般社会では、奉仕という言葉が、国家、社会のために無償で献身的に尽くすこと、あるいは、客のために商品を特に安価で売ること、というふう理解される場合があるということです。そのために、職業奉仕という言葉に違和感を覚えて、「職業奉仕は分りにくい」と考えるロータリアンが跡を絶たないのです。「自分の職業なのに、それが奉仕とは何のことか？」という感覚なのかも知れません。奉仕をサービスと言い換えても事情は変わりません。日本語のサービスは客のために商品を特に安価で売ることと解釈されることが多いからです。英語の service は serve の名詞形で serve は do something helpful for society という意味です。英語の service という語の意味を正確に表現する日本語の短い単語はないということになり

ます。service という英語を使っても、説明無しで使うのであれば、解決にはなりません。つまりと  
ころ、2 節、6 節 6.1 小節および本小節で述べたサービスの概念をよく理解したうえで、自らの立場  
で社会のニーズを満たしていくことを、職業人の責務と考えて実行するのが職業奉仕の基本というこ  
とを、ロータリアン一人一人に認識してもらうのが、問題解決の道ということになるのだと思います。

次に、会員の職業奉仕活動を支援する立場にあるクラブの職業奉仕委員会、あるいは、名称は違  
っても、職業奉仕に関わる委員会の役割について考えてみたいと思います。ロータリーの奉仕活動  
の実践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員の訓練のための例示、あるいは、  
会員個人の職業奉仕活動の手本であることが、決議 23-34 の第 6-g 項 (3 節 3.2 小節参照) に明記  
されています。ロータリークラブは職業を絆とする人達の集まりですから、まず何よりも会員各自  
が自分の職業に関係する全ての人々の立場に立ち、高い倫理観をもって職業活動を行なうことです。  
そのような会員を育てる道場が、ロータリークラブであり毎週の例会なのです。例会での異分野の  
人たちとの交流を通して自己の道徳的能力、専門的能力を高め、その成果を職場に持ち帰って職場  
の人達やその関係者の能力向上に努め、その成果を再び例会に持ち込んで、異分野の会員と情報交  
換するということの繰り返しで、さながら螺旋階段を昇るがごとくに、自己の道徳的、専門的能力  
を高めていくのが、例会出席の意義です。そのためのプログラムの立案・実行、すなわち「入りて  
は学び、出でては奉仕せよ」のための研修と勉強会の支援がクラブ職業奉仕委員会の大切な役割で  
す。具体的には、次のようなことが考えられます。参考にいただければ幸いです。

- ① 職業奉仕に関する情報を年に 3 回ないし 6 回委員会が提供し、会員とともに話し合う
- ② 関係する業界、学協会、職場、地域社会において、会員が「奉仕の理想」にかなう行動を起こす  
にはどうすればよいかをともに考える
- ③ 単なる職業紹介ではなく、職業倫理・道徳に照らしての成功例・失敗例等の卓話・フォーラムを  
行う
- ④ ロータリーに関する勉強会を委員会主催で行う
- ⑤ 会員の職業（専門的知識）を生かした奉仕（出前授業、職場体験学習、よろず相談、クラブの卓  
話・フォーラムの公開等）を奨励・支援する。

当 2660 地区の職業奉仕委員会は、10 年プロジェクトとして小学校、中学校への出前授業を推奨して  
おります。これに対して、出前授業は職業奉仕ではなく社会奉仕あるいは青少年奉仕ではないのかとい  
う意見があります。しかし、実際のクラブの現場では、このような縦割りの議論を超えて、世の中のニ  
ーズにどう応えるかという立場で、知恵を出し工夫がなされています。ガバナー補佐がクラブ訪問の際  
に収集されたデータをもとに、出前授業以外のクラブの知的奉仕活動例のいくつかを下に示します。こ  
れらは、そのために立ち上げた委員会や、他の委員会との共同事業として行われているものです。

(実践例 1) 小学校、中学校への出前授業とリンクさせた職場体験学習

市内の中学生をロータリアンの事業所へ受け入れて、生徒に社会的・職業的自立に向けて必要な能力を  
養わせるとともに、学校の授業で学習する内容が実社会でどのように活用されているのかを実体験させる  
ことで、授業と実社会の生活との関わり合いを認識させ、授業での学習意欲を高め、学習効果を上げるこ  
とを目指すのが職場体験学習ですが、その前段階としてロータリアンが学校へ出向き、職業に関する出前  
授業を行うことにより、職場体験学習の効果を相乗的に上げることが出来ます。授業で聞いたことをその  
後で職場で体験できるので、生徒からの評判もよく継続事業として実施されています。小学生の古民家探  
訪の前に、家の持ち主が古い日本住宅における生活の工夫について出前授業をして、日頃あまり経験する

ことのない環境の見学の効果を上げようとするのも同様の試みです。なお、豊中ロータリークラブは、2001年より2012年に亘る小学校・中学校・高等学校での200回を超える出前授業の状況を詳しく報告しています。<http://culture-h.jp/hatadake-katsuyo/DemaeLesson2013-14.pdf> また、このクラブのホームページには、出前授業にかかわるいろいろな記事・報文が掲載されています。

#### （実践例2）大学への出張講義

関西の私学（同志社大学、京都産業大学、関西大学、近畿大学）で、業界の専門家が講師として派遣され、法学部の3年生・4年生を対象に、講義が行なわれています。1年間に90分授業が13回実施されています。学生からは「実社会の厳しさ、楽しさ、やりがい等が聞ける」と大変好評ということでした。

#### （実践例3）小学校、中学校新任教師研修会への講師派遣

毎年、教育委員会主催の新任教師研修会に会員が講師として講義を行っています。実業界での社員教育プログラム等を生かして新任教師の方々を研修し、彼らに良い刺激を与え、好評を得ています。

#### （実践例4）地域社会向け「よろず相談」の開催

毎年1回地域社会との共生をめざして、「よろず相談」を開催しています。法律相談に始まり、健康、税金、仏事、金融など、専門職であるロータリアンがその知識を生かして、あらゆる相談に応じています。同時に、献血、河内音頭、よさこいソーラン節踊り、バザー、花市、テーブルマジックなどのイベントも行い、相談会を盛り上げています。クラブの全ての会員の職業を生かしたロータリーに最も適した奉仕の一つだと思われます。